

若い頃に昔のと、戦争の話を
お話ししよう!

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.221

2013(平成25)年 8月 9日(金)発行



▲国見団地にあった「原紡」は昭和20年2月16日と、8月9・10日、空襲されました。

○68年前の1945(昭和20)年8月9日午前11時2分長崎に原爆投下

●実は8月9日、南相馬市原町区にも空襲がありました。本陣前から馬場地区にあった「陸軍飛行場」と現在の国見団地にあった「原紡(原町紡織工場)」、「原ノ町駅・機関区」や民家が空襲され、3名が犠牲になりました。●翌10日も「原ノ町駅・機関区」が空襲され6名が死去。原ノ町駅の東にあった「帝金(帝国金属工場)」、相馬農蚕学校(相馬農業高校)や原町小学校(原一小)も空襲されました。

<二上英朗著『原町空襲の記録』・『原町市史』11巻 参照>

◇戦争を風化させないため、「私の・家族の戦争体験」を語り継ぐ時です。原稿をお寄せください。

なかなか、取材してもらえないニュースです!

私たちの3.11東日本大震災・原発事故の体験 30

相馬高校放送局 “JCJ(日本ジャーナリスト会議)特別賞”受賞 “第60回NHK杯全国高校放送コンテスト・テレビドキュメント部門”優勝

■相馬市の県立相馬高校放送局は、演劇『今伝えたいこと(仮)』などで、原発事故による被害や放射能の恐ろしさを訴えて活動してきましたが、「勇気ある行動」と評価され、2013年度日本ジャーナリスト会議(JCJ)特別賞を受賞。■1958年度の賞創設以来、高校生の受賞は初めて。表彰式は8月10日、東京・内幸町日本プレスセンターホールで、琉球朝日放送、NHK、北海道新聞、布施祐仁、大石芳野さんと肩を並べての表彰です。

■また、7月23~25日東京渋谷のオリンピックセンター・NHKホールで開催の、第60回NHK杯全国高校放送コンテスト・テレビドキュメント部門でも、作品『相馬高校から未来へ』(震災や放射能に翻弄される生徒たちの不安や怒りを映像でまとめたもの・8分)が、全国547作品の頂点に立ち、第1位の優勝・文部科学大臣賞を獲得。相馬高校としてNHK杯全国優勝は初めてです。

■さらに、原町高校放送部も同部門で『静かな・・・』という作品が優良(第4位)に、磐城高校放送部が創作テレビドラマ部門で『恋愛方程式』が優勝。被災地の福島県浜通りの高校生が大活躍です。

<JCJ特別賞受賞理由>

3・11後の福島には現代日本の矛盾が凝縮されている。原発事故や放射能について自由に話し合うことがタブーとされている。相馬高校放送局の生徒たちは音声・映像、演劇などの作品群を通して、その「禁」を打ち破った。「安全」「収束」の声に疑問をなげかけ、社会的現実を討論し見極め、今言わなければならないことを、心の奥底の不安、怒りとして表出した。日本の高校生の可能性を示す言論活動として評価される。

「原発さえなければ 私たちもこんな思いしなくても 済んだのかもね」



▲今年2013年1月1日『朝日新聞』全面特集で大きく紹介されました。写真中央が、取材された「ふくしま会議」代表理事赤坂憲雄さん(学習院大学教授・福島県立博物館館長)。右から二人目が顧問の渡部義弘教諭(相高出身で在校中は放送局部員・本会会員)。演劇は全国各地から依頼が殺到、直接上演やDVDで発表されています。

—<演劇『今伝えたいこと(仮)』より>

「私の話を聞いてください」
「誰も聞いてくれない」
「子どもの訴えを無視しないでください」
「私は原発周辺の地域は今まで原発のお陰で潤って来たと思う。リスクと引き替えにね。でもそれって私たちの世代が決めたことじゃないよね?」
「もし将来、私たちが他の県の人と結婚して、子供作ったりした時に、福島県の放射能のこと言われたらって・・・将来、子供が出来た時に、その子に障害があったりしたら・・・全部、私たちのせいにされる」

